

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンドイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.12

共済部会 第3回うるおい部会

(「環境」「文化・スポーツ」「市民生活」分野)
主な議事:環境を切り口とした市民生活デザインの議論
開催日:平成22年1月27日(水)
会場:池坊会館

レポーター 藤田 卓也さん



1987年広島生まれ。京都大学工学部工業化学科4回生。2005年に第5回京都学生祭典の実行委員長を務めたのち、現在は学生の課外活動支援のため、日本初の大学と学生の共同プロジェクトである京都大学学生コンサルティング室に所属

会議のポイント

POINT 1.

京都ならではの環境への取組! それにはどんなものがあるだろう?



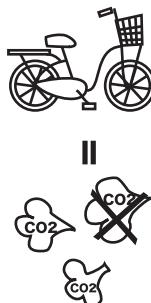
京都は山紫水明の地、豊かな自然も文化もあるまちです。そんな京都ならではの取組にはどんなものがあるか議論されました。自然を歩いて巡るエコツーリズム、道路を竹・木・土・水だけでつくるなど。新たな観光資源になったり経済を活性化したりと、より大きな成果につながっていくのではないかでしょうか。

この会議を傍聴して、 藤田さんが思ったこと。

環境問題は様々な分野をまたぐ問題ですが、今回「教育」に関する話が示唆に富んでいました。ドイツではミミズの入った飼育箱にいろんなものを入れ、ミミズが食べるものは自然に還るもの、食べないものは還らないもの、だからビニールなどは買わないようにしよう、といった教育が行われているそうです。そこにあるのは「考え方や判断の仕方を教える」ということであり、知識を詰め込む教育ではないのです。10年後の教育像を描く上で、鍵になるのは、今教育を受けている世代です。その世代に「考え方」を教えていくような教育も、今後様々な問題を話しあう際に重要な論点となるように思いました。

POINT 2.

市民ができる事を考えよう! キーワードは「具体化」「見える化」



京都市でも環境に関する数多くの目標が設定されています。ですが、CO2を減らすために市民が日々の暮らしの中で何をすればいいのか、また、結果どれだけの効果がもたらされるのかはあまり知られていません。より「具体的」な取組方法を広め、その結果を「見える化」して市民にやりがいを生み出す。そんな話題がありました。

私ならこうする! 未来の京都に向けた藤田さんの提案

市民のエコアクションランプリを開催してはどうでしょうか?環境に優しくなるためのアイデアを市民から募集し、「お金もかからず簡単にできるで賞」「一番CO2を減らせるで賞」「会社のオフィスにぴったりで賞」など多くの部門をつくり、いいものをどんどん表彰するのです。環境問題を解決するには市民一人ひとりの行動が必要です。が、市民からすれば何をしたらしいのかよく分かりません。だったら、市民自らがアイデアを出し合い、いいものはみんなで褒めて共有し、一緒に行動に移してはどうでしょう。三人寄れば文殊の知恵、京都市民147万人が寄れば?きっと素敵なアイデアが生まれるはずです。

U35については、こちらをご覧下さい。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

